

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301024		
法人名	有限会社ソウルメイト岡山		
事業所名	グループホームねむの樹		
所在地	岡山県津山市高野本郷1691-3		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 6年 3月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念で掲げている入居者の尊厳の保持のもと、安心して家庭的な生活ができるようにグループホームとしての支援を、実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念①基本的人権の保護、②家庭的な生活への支援、③生きがいを持って生活出来る支援を介護の現場に活かす取り組みをしています。居室から愛でる桜の木、家庭菜園作りと収穫、食材としての利用しています。朝のゆったりとした時間の流れるホールでは洗濯ものをハンガーに掛ける人、綺麗にたたむ人、側でゴミ入れ用の箱おりにしている人、パズル解き等の光景が見受けられました。入居者の残存能力を一人ひとり見極めて生活の中で役割を担ってもらい取り組みがあります。コロナ5類になったことで入居者と野菜市への買い物や運営推進委員会の開催など行事が再開し日常が戻るよう動き出している様子が窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(大地)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念を、ホーム内に掲示し、理念に連動したケアを心掛けています。ケアプランの見直しの時やホーム内の勉強会の時も理念の内容を反映するよう努めています。	法人理念が玄関やホールの目に付きやすいところに掲示され会議や勉強会の時に周知徹底が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の流行期は慰問や訪問を遠慮してもらっていたが、徐々に行事の参加や教室を再開しています。	季節の旬な野菜を提供してくれる地元の野菜市の方との交流は継続しています。絵手紙教室や地域の子ども御輿の再開に喜んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や地域の方に相談された場合など、適切に返答を行い、理解と支援に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームでの取り組みや状況報告を行い、ご家族や行政の方の意見を伺っています。また、毎月の活動写真も用意して見て頂くようにしています。	入居者家族への案内や行政への参加を依頼して2ヶ月毎に開催しています。日々の生活の様子を写真で紹介しています。	地区の民生委員や町内会長、包括支援センター職員への呼びかけて、事業所の理解者、協力者が増える事に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ、運営状況やサービスの実施内容を報告し、助言、指導を頂いています。また、生活保護受給されている入居者の保護係の方へ日常の様子をお伝えしています。	入退所のことや書類作成についての相談等を日常的に行っています。行政からの感染症対策についての情報はメール配信で来るので職員へ情報共有をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	eラーニングを全職員受講し、身体拘束に関する外部研修も受講するようにしています。ヒヤリハットの報告事例の中で身体拘束の面から事故を誘発した事例がないか協議しています。また、身体拘束についての勉強会を随時ホーム内で行っております。	玄関の施錠はなく帰宅願望の強い入居者については職員同士の情報を共有して対応にあたっています。時に自宅迄ドライブしお茶を飲んで帰宅することもあります。スピーチロックについても注意しやすい関係性が窺えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日常ケアの振り返り、不適切なケアや言葉遣いが行われてないか、毎月のユニット会議時に協議しています。eラーニングの受講と高齢者虐待に関する外部研修も受講するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者から全職員に対し勉強会を実施し、理解を深めるようにしている。また、対応が必要だと思われる利用者がある場合は随時職員に説明・アドバイスをを行いながら、利用者の支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者の権利・義務を分かりやすく説明し、質問に応じ十分に理解して頂けるように努め、苦情の受付や契約解除に至る場合も家族・本人と相談し納得が得られるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者はいつでも意見、不満、苦情を申立て出来る事を説明しています。また、ご家族からの意見や要望があればユニット会議内で全職員で共有し、運営に反映するようにしています。	家族へは面会時になるべく声かけをするように心がけています。話しやすい関係作りと要望についてはユニット会議で話し合い共有し改善しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員によるユニット会議で、互いに意見を出し合い、協議の上、職員間での意思疎通を図り業務を履行しています。	代表者、管理者との関係性は良好でユニット会議だけでなく、気づいた時点は話を出して対応してもらっていることが有ります。報告についてもその都度しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット会議に出来る限り出席して、職員の意見や要望を把握して、働きやすい環境作りに努めている。また、可能な限り職員と共に業務を一緒にやり、問題点等の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内は、その都度全員に伝え参加を促している。研修報告はミーティング時にしている。資格取得には環境を整え積極的に薦めている。eラーニングを活用し、全職員が同じ研修を受けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	津山市介護保険事業者連絡協議会の会議や研修会等に参加しているが、他の事業者との交流については、コロナ禍の状況が落ち着き次第、交流機会を設け、サービスの向上に努めて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活状況を丁寧にアセスメントし、出来るだけ多くの思いをくみ取るように心がけています。心身の状況、生活歴に配慮した環境づくりを行い、安心と信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望・意向を理解するように努めています。家族ならではの思いに寄り添い関係づくりの土台を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との面談の中で丁寧にアセスメントを行っています。また、入居前に担当者会議を開き、本人や家族の状況を職員全員が把握するように努め、入居後の状況変化に対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の立場に立って親しい信頼関係を築けるように関わり、生活のさまざまな場面で教えてもらったり悩みを聞いてもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と綿密に連絡を取り相談しながら支援して、ご家族に意識を積重ねるようにしている。そして本人と家族の関係を一番大切にするように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限を設けているが、電話や手紙・ハガキでの連絡を取り持つなどの支援や感染症対策を則した面会室を設け、短時間の面会を実施している。また、入居前に使用していた家具や思い出の品等を持ち込んでいただき、大きく環境を変化させないようにしている。	入居前の状況はそれぞれ病院、在宅、施設からの入居と異なりますが、友人の面会は感染対応を考慮しながら受け入れています。帰宅願望がある入居者へはその都度丁寧に対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況と関係見守り必要な働きかけと共に和やかな雰囲気づくりを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人や家族とのかかわりは継続している。新しい生活の場の職員との情報交換し、本人を慰め励まし、職員・入居者皆で応援する姿勢がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や嗜好等を聴き取り生活に生かしている。意向の確認が難しい利用者も観察し本人の思いの把握に努めています。	その人らしく暮らし続ける為には、難聴の方には筆談や液晶パネルを使い意思確認をしたり、入浴時のリラックスしているときに声かけをして気持ちを聴き、職員間で情報の共有をして思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の時点から今までの暮らしぶり等のバックグラウンドを伺ったり、日々の生活ぶりを観察し、介護職員間で協議しながらアセスメントシートの記入をして情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や動き・言動の観察に努めバイタルチェックや食事の摂取量・排泄状況の観察を行い、体調の把握に配慮しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から聞き得た思いや要望と、申し送りやカンファレンス等で話し合った事を土台にしてプランを作成している。面会時には状況報告して意見をもらいモニタリング評価の参考にしてている。	個々のカンファレンスやケア会議で話し合ったことを基にアセスメント、モニタリングに活かしています。往診医師へは事前に健康状態を報告して多方面から本人にあった介護計画になるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録には小さな事でも変化を見逃さず記録している。バイタルや食事摂取・排泄状況及び言動等を分かり易くチェックできるよう記録しています。ケアプランに連動したモニタリング評価を全職員で行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調や危険度等に問題がない限り、外出・外泊・訪問他出来る限りの要望に応じ支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元野菜市への買い物他、ボランティアグループの訪問、子供会活動の参加等、地域の方達や活動と関りを持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ホームの提携医はありますが、出来るだけ本人及び家族の希望する医療機関を利用しています。また、受診に通いづらい利用者の方には、往診対応をして下さる医師(内科・歯科)の支援もあります。	往診医、担当医、調剤薬局の薬剤師との連携を取りながら入居者にとって適切な治療・相談が受けられるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに看護職員はいませんが、利用者の体調に異常があれば往診契約をしている診療所の看護師や医師に相談しています。また、介護職員でも行える処置やバイタル測定の注意点他アドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供シートを活用し、細やかな情報も伝えるようにしています。退院後の生活を想定して、治療方針と入院中のリハビリに反映してもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合の意向を伺い、ケアプランの更新時に確認を伺っています。医師、看護師、本人、家族を交えた意向確認も行い方針を共有して支援をしています。本人・家族の終末に向けての思いを尊重し、常時医療行為が必要になる時には、時期の見極めに主治医等と相談・連携を図っている。	入居時、家族へ説明を行い、また病状変化に伴いその都度、家族サービス担当者会議の中で対応方針の共有化を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整え、日々確認し合っている。また、消防署の方に協力して頂き、救命救急の講習会を行う等の急変時の対応を反復訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル・消防計画を作成し、防火管理者を選出して年2回避難訓練を行っている。また、運営推進会議においてもマニュアル等を紹介して地域の方たちとも協力し合えるよう話し合っています。が、夜間の対応がまだ確立できていない状況です。	年2回の避難訓練と備蓄品の確保をして、緊急連絡網はグループラインで行っています。不参加の職員については回覧等で周知徹底しています。	運営推進会議を通じて、災害時における協力者が増える事に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活を支援してゆく立場として、尊厳を否定するような声掛けは無いが、プライバシーに配慮せず不適切なケアを行っているか、何よりも重視すべき事として、ユニット会議内で話し合いをしています。	入居者を尊重した声かけとしては「ありがとう、たすかっているよ。」等伝わり易い言葉を使っています。トイレ誘導についても排泄(便)チェック使って誘導したり、見守りモニターを使いながら生活支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と信頼関係を築き、普段の生活の中で思いや希望を汲み取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スペースを軸として、入浴や家事手伝い等の誘いをしています。好きなTV番組や趣味の時間は邪魔をせず、本人の望む過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に一度、近所の理美容室から来てもらい、散髪やカラーをしています。化粧や眉毛カット・洋服選び等の他、身だしなみを整える事を職員も一緒に楽しんで支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむ為に、食欲をわかせる話題づくりから献立を考える事、調理する事、個々の得意な事を活かし皆で協力しています。	個々の入居者の残存機能を活かし、食材をプランターへ収穫に行ったり地域の野菜市で購入をして準備段階からの関わりを持って食事に参加しています。行事食、パースデイ献立など入居者の要望を聞きながら一緒に考え調理しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・調理のオンライン研修を受講し、栄養摂取と水分確保の為に活かしています。個々の摂取状況に合わせ、刻み食やわかか食を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに誘導し、口腔内の食物残渣物を確認しています。必ず義歯を外し、しっかりうがいをするように勧めています。うがいが出ない場合はスポンジブラシやガーゼを用いて汚れを取り除いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを見計らい、定期的にトイレ誘導を行っています。一連の排泄動作を出来るだけ本人に任せ、出来ない部分だけを手伝っています。失敗があっても自尊心・羞恥心を傷つけないよう配慮した声掛けを行っています。	残存機能を生かしながら自立に向けた支援を行っています。落ち着きなくそわそわしている行動から、不安への配慮をし、その都度声かけしトイレへ誘導しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスに配慮し、水分摂取を勧めています。リハビリ体操の中で、便秘予防体操も行っています。排便チェックリストで便秘者の把握を行い、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ入浴できる時間帯を多く取っています。又個々の希望にあわせ温度設定やお湯の量を調節させていただいている。	個々の希望や体調による入浴は週2、3回で生活習慣・希望を大切に「つろいだ気分」で入浴出来るように支援しています。入浴剤・ゆずを使ったりして季節も取り入れてリラックス効果が得られるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたい時間帯にはゆっくり過ごして頂くよう配慮しています。本人の居室以外にも、静かな場所や日差しの良い場所に椅子やソファを置いて休息できる場所を用意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は配薬時に間違いのないよう、個々の服薬目的と薬の種類を覚えるよう努めています。症状の変化があれば細かく記録し申し送るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味活動を支援する中で、個々の得意な事や好きな作業を勧めています。季節の野菜の収穫花の水やり等気分転換になるよう作業の支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉見物等の季節行事の他、利用者の希望する場所へ出掛けています。また、短時間でも外気を浴び自然の草木にふれられるよう積極的に散歩へお誘いしています。	入居者からの外出場所の希望は花見、紅葉見学、買い物(洋服)が多く日常的にも個別支援出来るようにしています。スーパー内にある洋服売り場へ出かけていたりしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等に、衣類や靴等の日用品、本・雑誌・おやつ等の嗜好品の購入等を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙が出せるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の温度、明るさの他にもテレビの位置や音量に気をつけています。度々換気を行い、新鮮な空気を取り入れるようにしています。皆で制作した季節感のある壁面製作を飾り、あたたかい雰囲気の空間づくりを心掛けています。	入居者は一日のほとんどをホールの共有空間で過ごしています。居心地の良い自分の席を確保し、季節感あふれる壁面装飾と一緒に制作しています。一人ひとりその人らしく過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好きな場所に座れる為のスペースと気の合う利用者がやり取りしやすいよう椅子を並べかえられるスペースを確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に出来るだけ日々使い慣れた家具や愛用品を持って来て頂き、これまでの生活の雰囲気が継続できるよう努めています。また、持ち込みの少ない方は、本人の要望を確認しながら空間づくりに工夫をしています。	入居前の生活空間が継続出来るように家具や家族写真、お気に入りの服などをかけてたりして安心して過ごせる環境作りに心がけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手摺りの増設をしたり、居室内の家具の配置の工夫を行っています。		